

中学生が市政を問う！こども議会

9つの中学校から代表者2人ずつが質問をしました。

未来を担う



度島中学校 榎屋 雄大さん

税金の使い方について

Q 度島診療所整備費用にどのくらい税金が使われたのか？

A 整備費総額1億6,700万円であり、補助金2,500万円、借入金1億3,900万円（うち2割の2,800万円が返還が必要）である。残りの300万円と10年間で返還する2,800万円の合計3,100万円が一般財源（市税）となる。



田平中学校 坂中 楓果さん

マイナンバーの活用方法について

Q マイナンバー制度の市独自の取り組みは？

A 制度内容や個人番号カードの申請などについて各地区での出前講座の実施、ホームページ・広報誌などで広く市民へのお知らせを行っている。



新消防庁舎の消防や救急の体制について

Q 消防庁舎が新しくなり、消防・救急の処理能力はどのくらい向上したか？

A 新たに高機能消防通信指令装置を整備したことにより消火活動の迅速化と出場までの時間短縮が図られるようになった。また、救急活動にタブレット端末を用いたシステムを活用することで、確実な情報による現場活動の効率化が図られた。



度島中学校 角野 小真知さん

イノシシ対策について

Q イノシシ被害の状況と今後の対策は？

A 防護対策・捕獲対策・住み分け対策の3つの対策を行ったり、市街地ではまちなか対策として注意喚起をしたり、専門家による生態・対処方法の啓発、出没場所のマップづくりなど地域と共に取り組みを行っている。



野子中学校 柴山 美月さん

中南部地区の活性化について

Q 中南部地区の雇用を増やす取り組みや地域活性化・若者の定住対策をどう考えているか？

A 「今ある仕事をのばして雇用に繋げる」、「今までに無かった企業を誘致する」を即効性のある施策として取り組んでいる。
また、多くのみなさんが、ふるさと平戸で安心して働けるよう、雇用を増やす取り組みを引き続き強力に取り組んでいく。



選挙権拡大の効果について

Q 選挙権が18歳まで引き下げられたことで、どう変化があったのか？

A H28の参議院選挙の際の投票率は、18歳で35.45%、19歳で25.44%だった。その中で高校生については選挙についての出前講座や期日前投票所を学校に設置するなどの取り組みを行なったことで、80%の投票率となり、選挙への関心を高めるよい機会となった。



田平中学校 加藤 七海さん

学校施設の補修について

Q 学校施設の補修への予算は？施設のチェック・補修のタイミングは？

A 平成29年度予算は市内の小中学校26校で約3,000万円である。学校の耐用年数（国基準）は47年だが、改修などに関しては財政運営上計画的に状況をみて実施している。



野子中学校 松永 海喜さん

道路整備について

Q 登下校時に危険を感じる道路などの整備はどのように対応しているか？

A 現地を確認した上で、国道道は県が、市道は市が対応することとなり、危険箇所は現場の状況を見て検討する。
また、歩行者用の街灯は、各地区で協議の上、防犯灯として設置することができる。



水道環境について

Q 湯水や断水が起こった場合の対策は？

A 本市の湯水対策マニュアルでは、主要ダムの貯水率が70%以下・・・対策本部設置・市民周知
55%以下・・・減圧給水
35%以下・・・時間給水としている。また、断水の際には、各関係機関や地域の方々の協力のもと、状況に応じ体制を整え、安定的な水の供給に取り組む。



中部中学校 川村 優衣さん

介護士(福祉)の仕事について

Q 福祉分野の仕事は高齢化が進む中、最も重要な職業だと思うが？

A 介護現場の負担軽減のため！IT技術やロボット活用への支援を行い、職場環境の改善を図っている。
また、新規採用を行なった施設に対し、資格取得への研修費や人件費の支援を図り介護の担い手確保など必要な支援を検討する。



中野中学校 大石 知夏さん

少子化問題について

Q 子どもの数を増やすための具体的な対策は？

A 若い世代が子育てできる環境整備が重要であるため、「子ども子育て支援」「結婚・妊娠・出産に向けた支援」「教育環境の整備」の3つの方策を掲げ、市民ニーズを把握し、先進的、効果的な事業展開を行なう。



南部中学校 大石 佳奈さん

平戸市の医師不足について

Q 医療を必要としている市民は多数いるのに、なぜ医師が少ないのか？

A 市内の医療機関では、医師数の減少・高齢化が進み、医師の確保が困難であり、今後に向けての重要な課題である。
市民が安心して医療を受けることができるよう他の地域との医療体制の確立を早急に図りたい。



生月中学校 橋元 勝美さん

ふるさと納税について

Q どのようなところで使われていて、どのような返礼品があるか？

A 自主財源の確保に大きく貢献しており、地場産業の活性化や雇用の確保、少子高齢化対策にあてられている。
干物や地魚の詰め合わせ、平戸牛、野菜と果物セットなど本市の豊かな農産物が人気。



中野中学校 石田 愛佳さん

学力向上について

Q 市内中学生の「スマホ・タブレット」保有率は？学校の授業や家庭学習を集中して取り組ませる対策は？

A 市内全中学生の保有率は40.8%（平成28年度323人）、県内全中学生では45.7%となっている。メディアとの付き合い方は、学校と家庭が連携し取り組むことが重要で、電源を切る意思を強く持ち、生徒、保護者への意識づけの研修なども行なう。



平戸中学校 北川 海さん

平戸市の観光について

Q 観光客増加のため平戸城への宿泊を継続できないか？

A 平戸城には、宿泊設備が整備されておらず、法的問題等をクリアできないため継続は難しいが、今回の企画は日本初という話題性をよび平戸観光の可能性を大いに感じることができた。既存の観光施設を生かすことができる体制を整えたい。



生月中学校 神田 千佳子さん

学校の図書室と地域の図書館について

Q 多くの生徒が本を好きになるための対策は？

A 学校図書館支援員を中心に新書のコーナーや平和人権などの学習コーナー、読書週間中の催しなど読書に親しむ機会を増やし、入りやすく使いやすい図書室になるよう各校で工夫している。



統廃合後の堤小・中津良小学校の校舎について

Q 統廃合後の校舎について、地域のふれあいの場や学びの場に活用できないか？

A 市が一方向的に校舎活用の方針を決めるべきではなく、過去の事例をもとに地域の方々を中心に学校跡地利用検討協議会を組織した上で、十分に協議を重ねていく。



平戸中学校 松尾 蒼以さん

障害を持っている人に優しいまちづくりについて

Q 障害をもった人に優しいまちづくりの計画は？

A 「障害の有無によって分け隔てられることなく、安全で安心な暮らしができる福祉のまち、平戸」を目指し、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を図りたい。